

令和6年度 自己評価

世田谷区立松沢小学校

◆評価項目		・評価のための指標	数値	各部会からの提案
個別最適な学びと協働的な学びの充実に努め、一人置き去りにしない学校	1	児童が落ち着いて安心して過ごせる生活環境を作る ・児童に自分のよさや他者の良さがわかるような活動や場面の工夫 ・学年内、又は学年をまたいでの交換授業や合同授業を積極的に行う。 (みんなうちの子) ・整理整頓を心がける。清掃の徹底。靴箱の整頓。床に物が落ちてない。 ・けがやトラブルがあったときには、児童が帰宅する前に保護者に連絡 ・学期に1度以上、ミニミニ面談等を実施し、児童と担任が1対1で話ができる機会を設ける。	3.2	
	2	主題的に学ぶ（活動する）児童を目指す ・キャリア教育の推進（なりたい自分になる） ・ICTの積極的な活用。 ・ゲストティーチャーを招き、専門性を生かした授業作りを行う。（本物に触れさせる） ・学校図書館の活用	3.1	
	3	共生社会の実現に向けた活動の推進及び、多様な学び・多様なものの見方を醸成する ・教師自ら人権感覚を磨く（何気ない言葉に気を付ける） ・ユニバーサルデザインを常に意識する（視覚に訴える教材の工夫、板書の工夫など） ・インクルーシブ教育の推進 ・様々な事情を抱えた児童を取り残すことなく工夫を凝らす。（感覚過敏 登校しぶり等）	3.2	
	4	安全・安心な学校を目指す ・初期対応を丁寧に（後になるほど大きなエネルギーが必要） ・安全点検、安全指導の徹底。命の大切さ。（避難訓練は100点でなければならない！） ・安全第一 学校事故防止（複数の目で確認 ダブルチェック） ・対応の3原則（笑顔、誠意、スピード） ・Q-Uテストの活用 学級での居心地を高めるための方策 要支援群の児童への対応	3.2	色覚検査や視力検査等、今年度教室近くで行った健診もいくつかあった。学校医による健診など、小アリーナや保健室で行った方がよい健診もあるため、養護教諭から具体的に健診内容と場所（教室近くで行えるもの）を提案してもらう。（生活指導部）
教職員のチーム力と学校を高め、教職員が輝く	1	常に組織を意識して教育活動を行う ・学年、チームでの対応（一人で対応しない斜めの関係をうまく使う） 学年主任同士の連携 生活指導主任やSCの活用 必要な情報を必要な人が共有する すき間を埋める力 ・管理職への報告・連絡・相談・確認の徹底（学校の信頼に大きく影響します）	3.3	
	2	開かれた学校づくりを推進する ・学校HPの充実。積極的な更新（一人一人が学校の広告塔の自覚） ・学校便り、学年便りの充実。お知らせだけでなく、考え方や具体的な子どもの様子の発信 ・保護者・地域を巻き込んだ教育活動	3.1	
	3	教職員の物理的・精神的負担の軽減 ・作成した資料や教材の共有 ・交換授業や合同授業の推進（教材準備時間の効率化） ・会議の精選 教材研究のための時間の確保	3.1	養護教諭に出欠の記録を入力してもらっている現状で、「遅刻予定の子が欠席になった」ときのような修正は、担任のタブレットから行うと便利である。そのことをミーティング等で周知していく。（ICT部）

探究的な学びを目的に追求する学校をめざす、学	1	<p>◆GIGAスクールの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの使用が目的ではなく、あくまでも手段として活用 ・ネットリテラシーについても指導する ・保護者の理解、協力を仰ぐための努力 ・タブレット活用の心得の徹底 	3.0	
	2	<p>◆せたがや探究的な学びの追究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年や専科との連携を密に。情報の共有 ・専門性を高めるための努力、研修 ・校内での積極的、自主的な教員研修 	2.9	分科会提案の時間を2, 3分程度に短くする。その分、小グループで話し合った内容を全グループに話してもらう。(研究部)
上康子 に・ど 学校に 努力も め力の る向健	1	<p>健康・体力に関心をもたせる教育を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育授業の充実 (校内研究 系統性 基礎・基本 積み重ねの重要性) ・外遊びの奨励 	3.0	運動委員会による遊びの計画を立て、外に出る機会を作る。長時間出なくとも最初に外に出る機会を作る。(体力向上)
ど地域 学をと 校育共 てに る子	1	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の中にある立地や、歴史ある本校の背景を、効果的に活用 ・地域人材の活用 ・外部機関との連携 ・豊かな体験活動 	3.3	
		<p>生活指導部には各学年から担当がてくれるといいです。(今年度は6年の担当が不在でした。)</p>		<p>余剰時数を少なくし、各月適切な時数配置を行う。 11月の最終週に4時間が続くことは行わない。(教務)</p>
		<p>保護者会の目的と運営の仕方</p> <p>保護者会を通して、学校での子供たちの様子を知らせることはもちろん、保護者同士や担任と保護者をつなぐことも目的の一つだと思う。しかし、オンラインと対面の2通りから選択できることで、あえて時間を作つて学校に来ることをしない家庭もある。準備のことを考えても、どちらかにしたい。</p>		<p>管理職判断。ハイブリッドでなく、対面かオンラインかどちらか一方で行えるとやりやすい。(ICT部)</p> <p>保護者会の回数を年間3回とする。(4月、12月、3月)</p> <p>4月と12月は、学年で行いオンラインと対面をどちらも行う。クラスに別れる部分のオンラインは行わない。</p> <p>3月については対面のみで行う。(教務)</p>
		<p>通知表で行動の記録が無くなるのであれば、2学期の通知表の所見をなくし、個人面談があつてもよい。</p>		<p>12月に面談の期間を設定し、2学期の所見はなしにする。(教務)</p>
		<p>代表委員会は無くてもよい。計画委員と代表委員の仕事が重なつていて、人数多く、仕事が進めにくくい。</p> <p>全員が入る教室も無い。</p>		<p>【特活】</p> <p>計画委員会とクラス代表を無しにする。</p> <p>代表委員会は他の委員会と並列にする。代表委員会のみ所属を4~6年(各クラス2人ずつ)にする。</p> <p>他の委員会は今まで通り、5・6年で構成する。</p>

水泳指導の確認		学校だよりや学年だより、すぐーる等で保護者にお知らせし、同意しない人のみ連絡帳でお知らせしてもらうこととする。（体力向上） 水泳指導期間は1学期内で行う。（教務）
個人情報用封筒の有無		配布時期を調整し封筒を使用する。（教務）
ミーティングの内容		読み上げるだけの場合は☆マークはつけない。 ミーティング記録、欠席の回覧は行わない。 児童理解タイムでは児童のことを話す。通常の連絡はミーティングで行う。 (教務)
配布物の精選		かなり削減している状態なので継続する。（教務）

